

# 草加市倫理法人会(1月) モーニングセミナー報告

自分が変わる。  
会社が良いくなる。  
不況に負けない。

## 一月八日(木) 第八八三回

◆ 講師 田中 和明  
草加市倫理法人会 顧問

◆ テーマ 「まごころのこもった街づくり」



生家は草加市氷川町の草加神社です。明治四十二年、十一社の御霊を預かり、氷川神社から草加神社へとなりました。草加神社を通して日本の伝統・文化を後世に伝えていきます。昭和四十六年、草加市役所に入所して三十八年間、勤務しました。平成二十二年に「神社は息子でも出来るが市長は田中さんしか出来ない」の言葉に決意を固め市長職に就きました。平成二十六年十二月十二日より公約を三十三項目掲げ、二期目の職務がスタートしました。松並木、奥の細道が国の名勝指定を受け、後世に伝える保存計画を市民目線で構築していきます。そして災害に強く、市民の安心、安全、豊かさの実感が出来る快適な草加市を目指して、「まごころのこもった街づくり」をしていきます。

芹澤 一人 記

## 一月十五日(木) 第八八四回

◆ 講師 関根 隆弘  
越谷市倫理法人会 副会長

◆ テーマ 「人生も仕事も常に修行」

(株)関根エンタープライズ 代表取締役



現在百三十名の従業員を抱える運送会社は一代で築き上げ、現在も尚、夢に向かって頑張っています。年齢差五十五歳の父親であり、環境とは言えない中、父母に甘えて過ごした幼年期でした。十七歳の時に父を亡くし、先輩が経営する解体工事店で働くが一年しか続かず退社。その後運送会社へ転職し、独学で運送会社の経営を始めました。トラック一台から始めた会社は成長し、自社ビルも完成しました。会社の成長と共に社員教育で壁にぶつかっていた時、倫理法人会と出会い、活力朝礼を取り入れ会社が変わりました。後継者倫理塾の入塾で自分も変わり、父親のありがたさも実感しました。二年後に運送関係の学校を開校してこれから運送の仕事をする人の為の学びの場をつくっていきたくと考えています。

風間 利高 記

## 一月二十二日(木) 第八八五回

◆ 講師 大倉 浩  
埼玉県倫理法人会 相談役

◆ テーマ 「仕事への取組みすすなおな自分作り」



商社マンを目指していたがロッキード事件をきっかけに法曹界に転向。平成元年に十回目司法試験に合格。七年に地元浦和で大倉事務所を開設。二十六年に埼玉県弁護士会会長に就任した。弁護士活動に東奔西走する中、企業のトップに経営倫理を学んでもらい、トップが変わる事で健全な企業にする事を目指し、倫理活動に懸命に取り組み。新聞社のアンケート調査によると「心掛けたいこと」は、整理整頓・早起き等、倫理の教えと同じ。倫理は早起きをして生き方を学ぶ場である。趣味は映画観賞・ダンス・読書。各々学ぶ事が多い。映画「生きる」は特に心に残り、幸せは掴み取るものではなく感じるものであると痛感した。弁護士活動では少年事件に強い思いがある。少年は家庭等の環境が変われば見違えるように変わる。更生への手助けをし、立ち直った姿を見ると弁護士冥利に尽きる。

齋藤 幸子 記

## 一月二十九日(木) 第八八六回

◆ 講師 三村 恵  
長野県松本中央倫理法人会 相談役

◆ テーマ 「心・たましいが喜び・心が光」



昭和三十一年生まれの五十九歳。二度のアメリカ留学を経験する。二十四歳で農家の長男の嫁として嫁ぐ。義母は決して「ありがとう」という言葉を言ってくれなかった。そういう事が災いしてストレスで過呼吸になる。その後、突然夫が原因不明で三ヶ月の入院をする。一ヶ月半程して膠原病と診断される。原因は過労、不眠、ストレスである。夫の退院と同時に倫理に入会し、指導を受ける。次男は生後三ヶ月で手術を受け、幼稚園卒園までは体が弱かった。苦労して育てた次男に養子縁組の話が持ち上がった時は主人も私も結論を出す事が出来なかった。次男自身が養子に入る事を決断。倫理の学びで、誰も家を継ぐ人がいない家「絶家」を継ぐことは人の徳を積む三大徳積の一つと学び、次男はこの事を実践したと思った。

住田 浩一 記